

佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2018 関連企画

「魔弾の射手」をより楽しむための 勉強会



日時：2018年7月11日(水) 14時～16時

場所：西宮公会堂 チャペルホール
〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

料金：無料

申込：下記FAX、もしくはMAILにて

7月10日(火)締切 先着100名様



10年前、兵庫県西宮で始まった兵庫県立芸術文化センター（以下、芸文センター）の芸術・音楽活動は阪神間の芸術・音楽を愛する人々を、より身近に劇場で体験する機会を作ることになりました。芸文センターが、佐渡裕さんを芸術監督として迎え、芸術・音楽活動の中心の一つとしてきたのが、「オペラ」でした。「豪華絢爛」な舞台仕掛けが毎年およそ10公演上演されることになったのです。オペラの鑑賞にあたって、その理解が体験をより豊かにするであろうことも少しずつ解ってきました。「理解」とは、たとえば芸文センターで取り上げられてきたオペラ作品の作品・作曲（家）の生まれた時代、上演史について理解し深めることを意味します。例えば、「キャンディード」は、ボルテールの「カンディード」（ヴォルテール：著、植田 祐次：翻訳、岩波文庫）をもとに、バーンスタインが作品化しました。「カンディード」の何たるか、それが「キャンディード」の誕生につながる「理解」があれば、「キャンディード」はより多く、倍、数倍も楽しめるのです。

そんな訳で、シェークスピアの「夏の夜の夢」は、シェークスピアの研究者による勉強会、「フィガロの結婚」は、世界で「フィガロの結婚」を体験してきた人の「体験談」を聞いて勉強して、芸文センターのオペラの本番に臨みました。

2018年の芸文オペラは「魔弾の射手」の勉強会を担当して下さるのは西洋音楽史家の岡田暁生先生（京都大学人文学研究所教授）です。「趣味を極める」ことと、西洋音楽史の研究を切り離せないこととして語られる岡田暁生先生は、その人柄においても魅力的です。今回の勉強会では『『本来』のオペラ史』『私の考えるオペラ』とその定義、ウェーバーのオペラ「魔弾の射手」を、より本格的に、より深く、よりおもしろく、鑑賞するための手解き、ということにもなります。

おびただしい西洋音楽、オペラの体験をもとに紹介される「オペラ」、中でもウェーバーの「魔弾の射手」を勉強して、7月20日（金）から始まる芸文センターの佐渡裕とオーケストラ、すべての出演者、演出家など渾身の力で届ける作品の時間を楽しんでください。

問合せ：西宮公会堂

TEL：0798-67-4691

FAX：0798-63-4044

MAIL：koudou@gamma.ocn.ne.jp

主催：西北活性化協議会

<http://www.nkrk.org/>

おかだあけお
岡田暁生



音楽学者。京都大学人文科学研究所教授、文学博士。1960年京都生まれ。著書に「オペラの運命」（中公新書、2001年、サントリー学芸賞受賞）、「西洋音楽史『クラシック』の黄昏」（中公新書、2005年）ほか多数。

7月11日(水) 勉強会参加申込用紙

FAX:0798-63-4044

御名前		人数	名
お電話番号			